



京築民話の

ふるふる瓦版



むかしから垂水ん村あたり
はのお、大そう開けたところ
やった。

大きなお寺や瓦を焼く窯もあって、奈
良の都から役人も来てまつりごとをする
よつな官衙もあつたんちゃ。

ほやけど人が往来すれば疫病がはや
る。そこで疫病を治めるために、播磨国か
ら牛頭天王を呼

ばれちよる疫病
封じの神様を垂
水の寺に迎え
祀ったつち。

いつときたつ
て大きなお寺が
ねえなると、山
国川と友枝川が
ぶつかる丘上
に「瀧ノ宮牛頭
天王」の社を建
て、村んもんは
「コシ天王、コシ
天王」ち呼んで
崇めたんちゃ。

「コシ天王」に
は毎年旧暦の6
月7・8日に「ト
ベラ祭り」ちゅうお祭りがあつてのう。ト
ベラは、白いい花を咲かせ赤けえ実のな
る木で、葉っぱから出る汁が臭いこつか
ら、扉ん間に挟むと疫病にかからんこつ
なるこつちゅうち、トベラをもらいに上毛
や下毛ん衆がいつべこつべお参りに来た
んよ。

トベラ祭りの楽しみはなんちゅう
てん牛替え行事。富くじを引いたら
1本だけ子牛が当たるクジがあつて
のお。百姓にとって牛は、なくてはな
らん大切な生き物やつたき、村ん衆
はこつて引いたもんやつた。

「コシ天王」ん周りは松林で、草木
が生茂る深い藪やつた。そんな下には
山国川が流れ、龍の淵ちゅう呼ばれる
深い淵があつてのう。淵に降りる細
い曲がりくねつた山道を通り、淵に
遊びに行った子どもが帰らんことが
何度もあつち、みんな淵に住む龍の
しわざに違いないと思つちよつた。

おまけに「コシ天王」ん本殿の欄間に
彫つてある龍が夜な夜な抜け出して
淵に降り、山国川で水のをんじよる
のを見たつちいうもんまで現れた。
村ん長老が集まり確かめちみると、
淵に降りていく道ん草は倒れたこと
なつちよつて、滑り降りたあとが
光つちよつた。



「こりや大事じゃ、村に禍
のあるかもしれん」
長老たちは談義した。

「神様なら拜んでしすまつてもらう
が、彫りもんの龍の動きを止めるん
は、どげしたら良いもんか」五寸釘
で龍の目をつぶすしかなかるう」
ちゅうことになり、村の若者が五寸
釘を打ち付けて潰したんち。

そん日から龍はもう出歩かんこと
なつたけん、淵に降りる道はまた
ボーボーの藪になつてしもうたつ
ち。幸い垂水ん村は「コシ天王」のあ
る自然の堤に守られて暮らせちよ
る。村では今でも、「コシ天王」ん龍の
彫りもんを大切に飾り、「トベラ祭
り」ん日にはオロチの神楽を奉納し
よるつち。

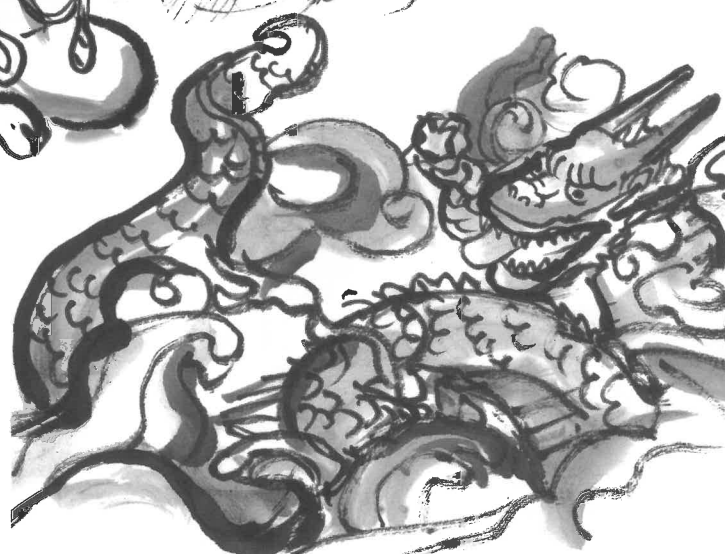
おしまい。

龍の目に五寸釘

八坂神社「瀧ノ宮牛頭天王」●上毛町垂水

令和2年(2020)、春先から始まったコロナ禍は世界
全土を覆い、まだ静まる気配を見せません。のどかな山野・
海川に囲まれた京築の至る所に、疫病に苦しみ、祈りを捧
げてきた人々の思いの足跡が見えてきます。

今回は奈良時代から疫病退散の祈りの場として信仰さ
れてきた築上郡上毛町垂水にある「八坂神社」と「瀧ノ宮
牛頭天王」に伝わる民話を紹介しましょう。



築上郡上毛町垂水648番地

1にある八坂神社は、江戸時代ま
では「瀧ノ宮牛頭天王」と呼ばれ
ていました。この神社は、山国川
と友枝川が合流する場所の山国
川の西側、南から延びる丘陵上の
北端にあります。『新吉富村誌』に
よると奈良時代、養老年中(71
7~724)に、この地に疫病が
流行したため、播磨国より疫病鎮
守のために垂水廃寺と推定される仏寺に勧請し、寺の守護神にしたのが始ま
り、後に風光明媚な現在の場所に移されたようです。ところが、慶応4年(1
868)の神仏判然令により、神社で仏教用語を使用することが禁止され八坂
神社と改称され今日に至っていると述べられています。

では、疫病を退散してくれる「牛頭天王」とはどんな神様なのでしょう？

牛頭天王とは、日本独自の神仏習合の神様でインドの祇園精舎の守護神で
あり蘇民将来の説話では武塔天神、またスサノオや薬師如来の化身である
と崇められた荒ぶる神様です。それゆえ水害や疫病など人々が恐れていた災
禍を防ぐ力を持つと考えられていました。

九州大学大学院教授で河
川工学が専門の島谷幸宏教
授は、「古代から人は、河川と
付き合う上で、重要な場所に
神社を置き、治水工事を行
守ってきた。牛頭天王が祀ら
れている場所是对岸の中津
市にある鶴市神社とともに
山国川の下流の治水上重要な場所であり、かな
り古くから治水事業が行われていたと考えら
れ、故に治水の神であり疫病退散の神であるス
サノオが習合する牛頭天王を移し祀ったので
はないか。『龍の目に五寸釘』のお話に出てくる
龍は山国川であり、友枝川との合流地点である
八坂神社下に、治水対策として巨石を置き水は
ねを造り流れを変えた事が地形上読み取れる。
確かではないが、五寸釘を打つということが治

水工事であり、そのことが民話によって推
測できるのではないか。」とお話してくだ
さいました。

八坂神社のそばには昔から堰があり、近
年山国川の治水と利水のために平成大堰
が作られています。地球温暖化により毎年
のように日本全国を襲ってくる水害に加
えて、令和2年(2020)の新型コロナウイルス
による疫病感染など古来より人は
幾たびもこのような苦難を乗り越えてき
ました。京築の身近な風景と民話の中に、
学ぶことができるのではないのでしょうか。
八坂神社の拝殿に飾られている阿吽の龍
の彫り物に会い、トベラ祭りで厄除のトベ
ラをもらいに「コシ天王」を訪ねてみては
いかがでしょうか。

※蘇民将来 日本各地に伝わる説話 およびそれを起源とする
民間信仰のこと。
●参考文献 『新吉富村誌』『福岡県名所図説』

